



グローバルな課題を教育的な営みから捉える

人間文化学部 国際文化学科
准教授 植村広美（うえむらひろみ）



連絡先 県立広島大学 広島キャンパス 1716 号室
Tel 082-251-5178 (代表) Fax 082-251-9405 (代表)
E-mail uemura@pu-hiroshima.ac.jp
URL <http://www.pu-hiroshima.ac.jp>

専門分野： 比較教育学 中国地域研究

キーワード： **日本**：グローバル化、移民、多文化共生社会、子どもの居場所作り、高等教育、汎用的能力、体験型学習、サービス・ラーニング
中国：公教育、非正規教育、農民工子女、留守児童、職業教育、国家資格枠組み（NQF）

履修者が中区基町で外国にルーツをもつ子どもを対象とした学習支援を行い、その教育効果を汎用的能力と専門的能力の双方から検証しています。

● 主な取り組み・活動

- * 大学院生の頃は**中国における農村から都市への出稼ぎ労働者の子どもである農民工子女**に着目し、実際に北京の農民工子女のためのノンフォーマル・スクールの教壇に立って研究対象者の理解に努めました。その成果を博士論文としてまとめ、平成 20 年度科研費補助金（研究成果公開促進費）を得て『中国における農民工子女の教育機会に関する制度と実態』風間書房、2009 年、として出版しました（本書は日本比較教育学会第 20 回平塚賞（本賞）を授与されました）。
- * 平成 30～32 年度科研費補助金（基盤研究（C））「東アジア諸国における国家資格枠組み（NQF）と高等職業教育改革の比較研究」を得て、**国家資格枠組み（NQF）の観点から東アジア諸国における職業教育改革の比較研究**も行っています。
- * 近年、**日本における移民の子どもの教育**について研究を進めています。とりわけ、広島市中区基町に集住する中国系移民の子どもの進路・進学状況、親の教育戦略等に関心を持ってフィールド・ワークを行っています。
- * 平成 29 年度から、社会人基礎力や学士力等で提唱される**汎用的能力**という能力概念に着目し、その能力の**測定尺度の作成**に取り組んでいます。また、**大学教育における体験型学習の教育成果を検証**するため、自身が担当する科目においてサービス・ラーニング（Service-Learning）という社会貢献活動を通じた学びのスタイルを導入しています。

● 今後の目標・抱負

- * 東アジア諸国における職業教育改革の比較研究について、今後はアジアのみならず他地域も含めた国際比較研究に発展させることを考えています。
- * 広島市中区基町における外国にルーツをもつ子どもの学習支援活動について、今後は大学における教育効果のみならず、地域貢献の側面からも検証することを考えています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

- * 今後、中区基町以外の外国人集住地域においても大学生による子どもの居場所作りに取り組んでいきたいと考えています。

● これまでの連携事例・実績

- * これまで広島市中区基町地区社会福祉協議会が運営する「ほのぼの文庫基町」で運営委員として携わっていましたが、平成 31 年度から同地区の「放課後子供教室事業（広島市教育委員会による委託事業）」において運営責任者を仰せ付かっています。多文化共生の地域づくりに向けて、今後、大学生による子どもの居場所作りを更に活発化させていきたいと考えています。